

JTU 埼玉高教組 ニュース

発行 埼玉高等学校教職員組合

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-13-10

ヤギシタビル4F



NO. 646

教育復興に向けて支援の輪を広げよう！

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojtu@maple.ocn.ne.jp

第26回参議院選挙「古賀ちかげ」当選！ 日政連議員が学校現場の声を国政に！



第26回参議院議員選挙(7月10日投開票)において、日政連議員(日教組出身の国会議員)として日教組(日本教職員組合)、埼玉高教組が応援する「古賀ちかげ」さんが当選しました。

144,344という票数は、教育を取り巻く様々な課題を改善してほしいと願う全国のみなさまの気持ちです。ご声援ありがとうございました。

古賀さんは福岡で臨時的任用職員として勤務し、子どもの立場にたった、子どもの目線での教育の大切さを日教組の先輩組合員から教わったと、様々な場面で語っています。その思いは国会で力強い議論の原動力となるはずです。

同時に7月11日に行われたWeb報告会では全国の日教組の仲間に向けて「これからも、おかしいこと

はおかしいと声をあげていく」と国会議員としての決意を述べられました。

今月、教員免許更新制が廃止されました。多くの方がホッとしているでしょう。このように学校現場の課題解決に向けての方策は最終的には国を動かす、つまり、国会で法制化させる必要があります。教育の環境改善のことは日政連議員が取り上げなければ、組上にもりません。

そのために学校現場の経験がある国会議員の発言は必須です。古賀さんのご活躍を期待します。

第26回参議院選挙(日政連議員)

比例 古賀ちかげ 144,344 当選

愛知県選挙区 斎藤よしたか 403,027 当選

共育共生部 総会報告

～今年度も無事対面で開催～

去る6月25日(土)、新規加入者も加え、今年度も無事、共育共生部総会を行うことができた。

昨年度は、オンラインではあったが関東ブロックのインクルーシブ教育学習会を幹事県として開催したり、全国教育研究集会に部員がレポート提出したりするなど、制限の中のできる範囲の活動を行うことができた。国に対しては、特別支援学校の設置基準を定める動きに対して、普通学級に在籍している障害当事者の児童生徒にも同規模の財政支援が行われるべく、パブリックコメントを提出した。また、埼玉県の「特別支援教育推進計画」には、新設校、分校の設立ラッシュで、分離別学体制が進んでしまっていることを問いただし、障害者権利条約の文脈で捉えた「真の意味でのインクルーシブ教育」が推進されるよう意見を提出した。

部の運営に対しては、コロナ禍初期から、オンライン部会を導入し、対面開催と合わせるとほぼ月に1回のペースで開催することができた。参加者をどう増やしていくかには課題もあるが、時折、職場での

課題を直接報告しにきてくれる部員もいるなど、継続して定期的に行うことで組合としての存在意義を示せるのだと再確認できた。

特別支援学校では、特に「知的障害」の学校で、休憩時間に部活を行っている学校が散見されるが、この点については、県にも問題提起をしており、コロナ禍後の学校運営においても引き続き注視し、法令違反状態が放置されないよう追及していきたい。

さて、今年度の共育共生部であるが、徐々に日常を取り戻すべく、学習会等を活発にできればと考えている。くじら会議との共催や、身近な話題で企画するなど、人が集まりやすいイベントで、課題の共有化と部内活性化を図りたい。

総会後は、青年部等と合流し交流。やはり、対面は良いなあという話が出た。職場での悩みや課題を仲間と共有できるのは組合の持つ大事な要素のひとつだ。共育共生部は、組合内でも拡大が進み若手の多い部である。ぜひ、今後の定例部会にも多くの方に気軽に足を運んでほしいと思っている。

講演会「障害があっても普通の子」で共にまなび、共にすすむ ～あるダウン症の子の普通高校生活～

7月10日岩槻で上記の講演会が「みんな一緒に・埼玉連絡会」の主催で行われたので報告したい。

講師の五十嵐玉枝さんの息子健心さんはダウン症で生まれ、生後4ヵ月で心臓手術、歩き始めは3才1ヵ月で、当時は「障害児は特別支援教育」と言われ、そうするつもりであったという。

しかし「千葉市地域で生きる会」と出会い、目から鱗が落ちるように、障害は特別な事ではなく障害があっても普通に生きる事が大切、健全な子ども達と障害のある子を分ける特別支援教育はおかしいと考えるようになったそうだ。

小学校、中学校と普通学級で学び、当然のように健心さんは普通高校を希望、試験では引率者1名を要望(別室受検)し、無事合格。定期考査の点が足りないときは補習、課題、再テストで一度も留年せず。高校からは教員の補助ということで支援員1名がついたが、友達との壁になると困るので10m離

れてくださいと要望されたそうだ。

仲の良い友達はたくさんで、小学校からの友達もいる。友達と口喧嘩するなど、当たり前の経験ができた、家ではコツコツ勉強していたが、周りの友達の姿勢に影響されたのだと後々わかった、点数は取れなかったが、学習意欲は育ったと感じているとのことであった。クラスメイトの気になる女子に「クリアファイルって中国語で何て言うんだろう？」と繰り返して訊いたり(その思いは伝わらなかったようだが)、保健室で体育をサボっていたことを、真面目な面とそうでない面がある、それが健心君、とクラスメイトの子が言っていたのを聞き、楽しい学校生活だったに違いないと思った、と五十嵐さん。

五十嵐さんは、8月にジュネーブで行われる国連障害者権利委員会に参加し「システム」の付かない本当のインクルーシブ教育を行うように日本へ勧告することを委員会へ求めてくるそうだ。